



INGING MOTORSPORT



INGING NEWSPAPER

INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp] インギングニューズペーパー



石浦選手、ランキング首位を堅持

TAKE FREE

「考えうる



最高の結果」



Race Report

Round.4 TWIN RING MOTEGI 8/20 Final 決勝 2017年8月20日 ツインリンクもてぎ

NEXT RACE ROUND.5 AUTO POLIS 9/9.10

Support by © cyber net 株式会社 サイバーネット


石浦、怒涛の追い上げで、ランク首位堅持!

Race Report 決勝 2017年8月20日 ツインリンクもてぎ
Round.4 TWIN RING MOTEGI 8/20 Final
 天候:曇り | コース状況:ドライ | Time [1:24'47.012] / Best [1'34.439]




前日の公式予選が雷雨により途中中断。決勝日午前中のフリー走行を30分から10分に短縮し、Q2-Q3が行われることになった。残念ながらQ1で敗退しているP.MU / CERUMO-INGINGにとっては決勝前のチェック走行時間が削られることになるが、わずかな時間の中でタイヤの皮むき作業を含め決勝に向けた準備を進めていた。昼過ぎからのピットワークを迎える前に雨が降り、路面はたちまちウェットコンディションへと変わってしまった。たまたま雨はやみ、気温も30℃近くと高いこともあって、スタート前の8分間のウォームアップの時点でほぼ所々にウェットパッチが限る程度まで回復。決勝は完全ドライコンディションでスタートした。国本、石浦ともにスタートダッシュでポジションアップに成功。国本は予選で前にいた石浦もかわし15番手でオープンラップを終えた。ただし、ミディアムタイヤでスタートした2台に対し、ソフトタイヤでのスタートを選択したライバル勢がアツクをかけ、レース序盤に国本は16番手、石浦は最後尾まで順位を下げるようになってしまった。集団の中に入り込んでしまったこともあり思うようにペースを上げられない国本は、12周を終えたところで早々にピットインを決断。初めて決勝で使用するソフトタイヤのライブに不安はあるものの、他車とのスペースをつくりソフトタイヤで追い上げる作戦に出た。交換して数周は1分35秒台のハイペースを重ねたが、各車がピット作業を済ませたところでもう一度集団につかまってしまった。数台が連なっている状況で打開しようとして国本は必死に追い抜きたい様子にかかると、最後まで順々に開けることができず、15位でのフィニッシュとなった。一方、序盤に最後尾まで順位を下げた石浦は、最終までミディアムタイヤで我慢の走行を続けて40周終了までピットインを俵ばした。ライバルたちが先にピットインを済ませ順位が空いていく中、石浦はどんどんペースを上げていく。そして全車中、最後にピットに入った石浦を、チームは迅速なピットワークでソフトタイヤに交換し7番手でコースに戻した。そこから石浦は他車に対し1周で2~3秒の違いペースでラストスタートをかける。42周目にヘアピンコーナーで度々鋭いオーバーテイクを披露し6位に上がる。翌周は5字コーナーでさらに1台をかわして5位へ、4位を走るマシンとはこの時点で10秒以上の差が広がっていたが、これを見ざるうちに削り取ると、50周目のビクトリーコーナーで逆転。最後は3位のマシンの背後まで迫りチェッカーを受けた。見事な追い上げで13のポジションアップに成功し4位フィニッシュを果たした石浦は、5ポイントを追加してシリーズランキング首位をキープしている。

No.1 国本 雄資 / Y.Kunimoto




「ミディアムタイヤでスタートしたため、序盤はソフトタイヤ勢に抜かれてしまいました。僕も早々にピットに入ってソフトタイヤで勝負するつもりでしたが、僕も早々に抜かれてしまいました。あまりリストラップも取れなかったし、一番のブレイクを狙ったのでなかなか抜けなかったです。次戦のオートリスはもっとタイヤに厳しいコースで今回は状況が変わると思うので、予選から合わせ込んで前の位置からスタートできるように、しっかりと準備したいと思います。」

No.2 石浦 宏明 / H.Ishiura




「セトアップ前に、僕のマシンはカソリンを多く積んでる状態だとあまり良くなかったんで、序盤に順位を下げてしまいました。今日はチャンクがいっぱい使いたくないと思って抜けたが、抜けてくるとカソリンも上がってきちゃって他車もマシンが冷たくなってリストラップも取れなかったし、ピットに入る前に「ポイント圏内ギリギリ」と聞いたので、インラップはもっと求めました。最後は一気に順位を上昇して抜けたが、スタート直後あれは想像以上で抜けたかもしれませんでした。チャンピオンシップを争えると思うので、今週末のレースの前でゴールできたのは大きいと思います。今日の4位は、考えうる最高の結果になったと思います。」

監督 立川 祐路 / Y.Tachikawa



「今日のポイント獲得は素晴らしいかと思いましたが、石浦は長期もうまく味方につけて挽回できました。ソフトタイヤをうまく使ったあたりが今日のポイントに貢献したのではと感じています。僕も、石浦が最後までオーバーテイクしてきてくれました。ソフトタイヤのライブは未知数でしたが、国本から早めに入りたいというリクエストがあった時、チャンクではあるけれど、ポジション的にはそういうタイヤにしてもらいたいという要望もあって、早目にピットに入りました。結果的にはうまく行かす、後半スタートでのロスもありリストラップもできなかったんですけど、国本の方は、良いこといろいろと重なって良かったですね。今回のレースでタイヤに関していろいろと分かる部分があります。チャンピオンシップも国本選手が1位賞につけているので、残り8戦頑張りたいと思います。」

総監督 浜島 裕英 / H.Hamashima



「今日はロングランのチェックもありできてよかった。不確定要素があるなかでのレースでした。石浦はムアアと唸って来たときのミディアムタイヤのタイムがいつもよりも良かった。それであのポジションまで上げてくれたのは素晴らしい。最後まで本気で戦ってくれた。レース全体として、ピットマンのタイミングが良かったりするのでオーバーテイクのシーンも多かったように思います。次戦は2台揃って上位争いできるような、頑張ります。」

GO FOR WIN!